

第1回 駅まちデザイン検討会 議事概要

日時：令和2年9月16日（水）10:00～12:00

場所：パレスサイドビルディング 8階会議室

1. 開会・挨拶

【都市局街路交通施設課長より挨拶】

2. 議事

(1) 趣旨説明

【事務局より資料1・2に沿って説明】

(2) 委員によるプレゼンテーション

・岸井委員

【資料3に沿って発表】

・森本委員

【資料4に沿って発表】

(3) 駅まちデザインの手引き取りまとめに向けた検討

【事務局より資料に沿って説明】

3. 意見交換

【2（3）での説明を受け、委員はじめ出席者間において意見交換がなされた。】

【駅まちデザイン検討のプロセス】

- まちづくり（駅まち空間の再構築）の進め方は、課題やニーズの整理を行い、ビジョンを共有してから、機能やアプローチの検討を進める順序が良いのではないか。
- 公共空間を利用しなくても行きたいと思うような駅まち空間やパブリックスペースをつくるなどのコンセプトやビジョンを示した上で、アプローチを示すと使いやすい手引きになるのではないか。
- 一般的な共通課題を書き出したうえで、地域別に特に配慮すべき課題について明確にまとめると使いやすいのではないか。
- 駅まち空間の開発に多様な主体が手を挙げられるような枠組みをつくる必要がある。実証実験や暫定利用から始めてもよいのではないか。

[手引きのまとめ方]

- 自動運転等、新たな技術への対応については、同時並行的に進められている検討の状況を踏まえながら進める必要がある。
- 多様な関係者がこの手引きをどのように理解すべきかがわかりづらいため、多様な主体が利用することを意識して内容を整理すると良い。
- 大都市と地方都市でプレイヤーは異なるかもしれないが、公民連携で取り組まないと良いものにはならない。
- 現状のまとめ方では、特に民間事業者が具体的なアクションに進める状態にはなっていない。今後求められるニーズも含めた発展的な課題への対応策についてどのような仕組みがあり得るのかを示してもらいたい。
- 駅まちデザインの方向性の中で、連携して課題解決（ネガティブを補う）していこうというだけでなく、もう一歩先に行くためのポジティブな連携（防災、情報提供、パブリックスペース等、連携して確保することで全体の質が向上するようなもの）についても示すべき。
- 今後の社会情勢の変化も踏まえて、駅まち空間での二次交通の在り方（使いやすさ、スペック等）についても示せると良い。
- 駅まち空間に機能が揃うことによってどのようなライフスタイルが実践できるか、駅まち空間やその周辺に住むことの価値を示すと良いのではないか。

[その他]

- 平成10年発出の駅前広場計画指針を参考に各地の駅前広場がつくられてきたが、時代にそぐわない部分や定量化していかなければならない概念、環境空間の位置付けについても、どこかで検討する必要がある。